



# 研究だより

佐賀県立唐津特別支援学校  
2023(令和5)年10月発行  
研究部 第2号

第2号は、各学部と寄宿舎の取り組みを紹介します。

## 小学部

### 1. 1学期の取り組み

#### (1) 共通理解した内容

○「各教科等を合わせた指導」の概要の説明や資料「授業づくりの進め方」に沿った実践例の紹介、グループでの話し合いを通して、「各教科等を合わせた指導」について具体的に考えた。

#### (2) 授業実践において取り組んだ内容（6月単元）

○「各教科等を合わせた指導」で、各教科等で何を学ぶのかを明確にするため、各学級で単元のねがいに含まれる各教科等を表記し、学習指導要領各教科等編を使って、各教科等の内容を確認した。

○各学級で話し合う時間を設け、子どもが主体的に活動できるための教師の支援について、じっくり話し合った。

### 2. 今後に向けて

共通理解した「各教科等を合わせた指導」や「授業づくりの進め方」について、授業実践の折に再確認して理解を深めていく。また、「個人のねがい・評価整理シート」を活用しながら、一人一人の各教科等の内容を整理して、子どものねがいを多面的に捉え、よりよい手立てにつなげていく。

## 中学部

### 1. 1学期の取り組み

#### 第2回学部研究会

・「各教科等を合わせた指導」について共通理解

#### 第3回学部研究会

・生活単元学習の授業づくりの進め方、「授業計画シート」の記入の仕方、授業実践①の発表の方法について共通理解  
・知的障害学級は各学年で、肢体不自由学級Ⅲ課程は学級単元でグループを編成し、授業実践①に向けて単元内容やねがいを検討

#### 第4回学部研究会 ・各グループで単元内容やねがいを検討

#### ★7月単元で、各グループで授業実践①

#### 第5回学部研究会

・各グループで単元の振り返り

#### 第6回、第7回学部研究会

・各グループの取り組みについて発表を行い、学部で共有



### 2. 今後に向けて

・自立活動について共通理解を図る  
・「個人のねがい・評価整理シート」の活用を進める  
・グループごとに12月単元で授業実践②を行う。知的障害学級2年生の授業を提案授業とし、単元終了後に授業研究会を行う。

## 高等部

### 1. 1学期の取り組み

各学年に分かれ、7月の生活単元学習において「授業計画シート」を用いた授業検討会を行い、単元終了後には、各学年で振り返りをする時間を設けた。

#### 各学年で検討した内容

- ・子どもが「精一杯取り組める状況」と「首尾よく成し遂げられる状況」づくりについて
- ・単元に含まれる各教科等について
- ・「様子」「ねがい」「手立て」について

#### ～取り組みの成果～

学年で「授業計画シート」を活用したできる状況づくりや支援についての検討を行い授業づくりをした。振り返りの時間を設定したことで、生徒がより主体的に学習に取り組むための支援について共通理解することができ、次の単元につながる良い検討会となった。

### 2. 今後に向けて

・12月には生活単元学習の授業実践を行い、その中で「個人のねがい・評価整理シート」を活用して、個人の各教科等の内容を整理し、子どものねがいを具体的にすることで、よりよい手立てにつなげていく。

## 寄宿舎

### 1. 1学期の取り組み

○「生活の場」寄宿舎という原点に立ち返り、寄宿舎とは、寄宿舎指導員とは何かを、校長先生の講話やグループ協議などを経て、全職員で思いの共有を行った。

○子どもたちの「やってみたい」「自分でできた」という気持ちを育てる取り組み、活動の実践（夏まつり etc）。

○生活の中での「主体性」と「ゆとり」の両立について、夏季休業中にグループ協議を2度に分けて話し合った。

○寄宿舎で身につけておきたい力を各棟で確認し、子どもに合わせたミーティングを行った。

### 2. 今後に向けて

★子どもたちにとって、安心安全基地になる寄宿舎として、支援の充実と職員間の共通理解を図っていく。

★舎生にアンケートをとり、子どもたち自身が寄宿舎生活をどう感じているのニーズを把握する。

★「できる状況づくり」を今後も意識して実践する。

